

情報連絡員報告・8月分

製造業の「業界の景況」再び水面下へ

～農産品を中心に猛暑の影響様々～

<東京都中央会>

8月の情報連絡員報告によると、7月に14年ぶりにプラスに転じた製造業の「業界の景況」前年同月比DI値が再びマイナスになったことが明らかになった。マイナス幅は-9.2だから、それほど心配することはないが、中小企業の景況に底堅さを感じない情報連絡員の方の心境が現れた結果といえそうだ。報告欄には、猛暑の影響が、家電製品小売、青果物小売、豆腐販売等の業界から寄せられている。製造業65人、非製造業85人、計150人の集計。

<特記事項欄より>

玩具卸=組合主催の玩具見本市があり、入場者数は若干減少したが、売れ筋商品を見いだそうとする熱気が感じられ、年末商戦への期待がふくらんだ。

理容用品卸=若い男性客の美容サロンへの流出、低料金サロンの増殖などで当業界の市場が不振。現状打開のため、業態改革を提唱し、営業メニュー・料金システムの見直し、店舗改装などを提案している。

百貨商業=中国からの低価格商品に市場全体が覆われ差別化に困っている。

豆腐販売=猛暑が続き豆腐は売上げ増加

に転じている。しかし、大豆のシカゴ相場は10年ぶりの高値を更新した。また、国産大豆は不作で、前年の倍の高値安定になったままである。

電気製品小売=記録的な猛暑が8月も続いたが、エアコンの需要は例年8月になると急減する。今月のリード商品は、アテネオリンピックもあり薄型テレビ及びDVDレコーダであった。

自転車小売=昨年は雨が多く来店率が悪かったが、今年はよかったようだ。販売台数は上がったが、単価が下がったため収益が上がらない。

米穀小売=8月は猛暑の中、なかなか米

の消費が伸びず組合員の販売は苦勞が強いられました。新米が出回り始めましたが、豊作基調の中、価格は下がり今後の動きに注意が必要です。

包装材料販売=業界の景況は本年度に入り好転しつつあったが、ここにきてまた悪化の様子を見せている。資金繰りも悪化の兆しがある。ホームセンター等による販売価格の低下に歯止めがかからず、なすすべもない。

青果物小売=今年の8月は異常気象で、野菜類はできすぎで安価で推移、後半には水不足でトマト、キュウリ、ナス等高騰した。また、果物類は天候の良さで全体的に甘みがありおいしかった。

木材販売=住宅着工数は今年度に入って、月を追って増加傾向にあり木造住

宅も同様に推移している。しかし、町場への仕事の流れは感じられない。当業界は相変わらずリフォーム中心で注文は細かく売上げを確保するのは難しい。

<要望事項欄より>

*いつでも、どこでも、誰でも、たやすく酒類が手に入り、飲酒可能な環境をなくすことが社会的に必要と思われる。

[酒類小売]

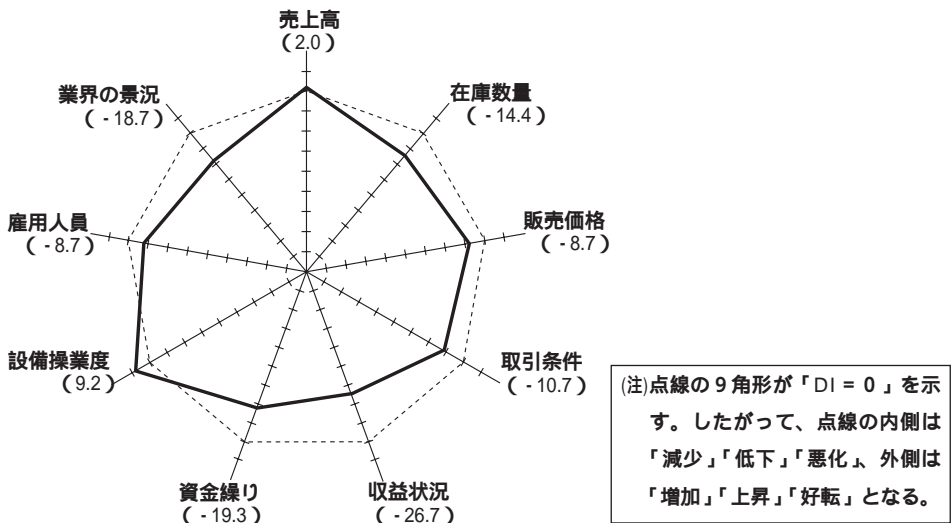
*組合等に対する補助金・助成金の拡充をお願いしたい。

[複写業]

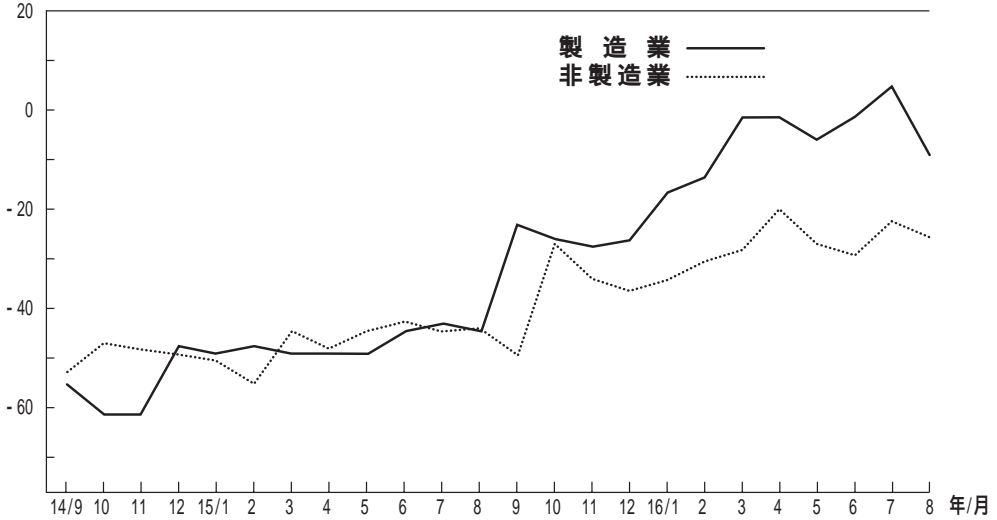
*新しい高速別納制度の骨格が見えてきた感じで、私たち事業協同組合の存続も確保される見通しで安堵しています。中央会のご努力に感謝いたします。

[トラック運送業]

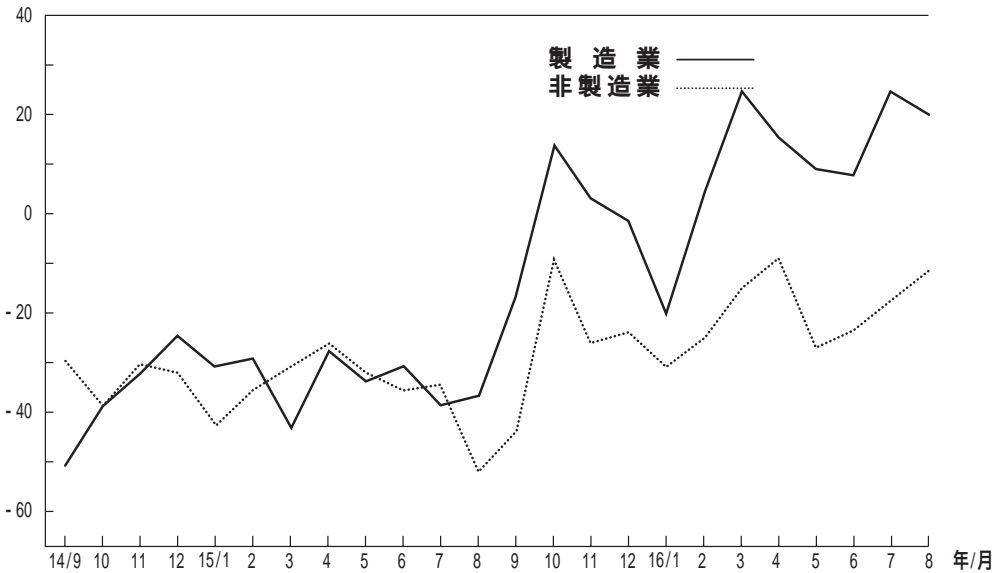
8月のレーダーチャート(全産業、前年同月比DI値)



業界の景況DIの変化 (H14.9 ~ H16.8)
(前年同月比)



売上高DIの変化 (H14.9 ~ H16.8)
(前年同月比)



(注)DIとは、ディフュージョン・インデックスの略で、前年同月に比べ「増加」・「上昇」・「好転」したとする割合から「減少」・「低下」・「悪化」したとする割合を差引いた値である。